

社会の両面を理解して、情報社会の行く末を読み解く学生を育てています」と説明。続いて、教務委員長の広田すみれ教授が、単位制度などについて解説し、「一つ一つの履修科目を大切に学んでほしい」と話しました。横浜キャンパスキャリア委員長の室田昌子教授は、14年度の学部の就職率が96.7%と高率だったことを紹介、「学内で数多くの企業研究会を実施しているので参加するよう伝えてほしい」と訴えました。また、今回初の試みとして、外部講師を招いての講演を実施。ソーシャルデザイン研究所の採用コンサルタント、渡邊剛氏が演台に立って「キャリア支援センターを活用している学生の方がそうでない学生より断然内定率が高い」などの話を披露しました。

4年生の保護者が集まる環境情報学部説明会にも、多くの保護者が集まり、会場はまたたく間にいっぱい。社会に出てからの心得などに熱心に聴き入っていました。



質疑応答も活発に行われました

東京都市大学が東急グループに属し、等々力、世田谷、横浜の3キャンパスの7学部が連携しながら教育、研究にあっていること、国内外の他大学ともパートナーシップを構築し、人間科学部と昭和大学との結びつきの強さなどが紹介されました。またそのカリキュラムの特色として「キャンパス内の子育て支援施設“ぴっぴ”や、八ヶ岳で自然に触れ合うなどの体験的授業を重視している」と話しました。キャリア支援を担当する倉田新准教授は、「保育機関への就職希望者は3年連続で就職率100%を達成。等々力キャンパスの学生は企業が求めるコミュニケーション力も高い」と胸を張りました。小林由利子教授は「世界大学ランキングで200位以内に入るニュージーランドのカンタベリー大学、オーストラリアのウーロンゴン大学と提携を結び、学生たちが現地で園児らと触れ合ったり、両大学の学生が本学の授業に参加するなど盛んに交流している」と異文化交流にも力を入れていることを語りました。

その後の個人面談にも多くの保護者が参加し、日頃知ることのできなかつた大学や学生たち、学生と社会を取り巻く環境変化などについて詳しく話を聞きました。

なお、今年度、全国の連絡会へのご参加は全1,681世帯。来年も多くの方々のご参加をお願いします。

### 等々力キャンパス 社会が求めるコミュニケーション力を高める等々力キャンパスの学び

等々力キャンパス会場では、午後0時半から受付開始、1時より都市生活学部と人間科学部の説明会がそれぞれスタートしました。人間科学部児童学科の学部・学科説明会では、15年4月に学部長に就任した井戸ゆかり教授が挨拶。



200を超える参加申し込みがあった等々力会場



「等々力の学生は対話力が高い」と倉田准教授

### 沼津会場

## 本学の取り組みや大学生活の理解を深める機会として

横浜キャンパス 学生支援センター 課長 深山 芳寛

「平成27年度大学と保護者との連絡会—沼津会場—」は、平成27年9月6日(日)午前10時より、ホテル沼津キャッスルにて開催されました。当日は、27世帯39名の保護者の出席がありました。

本連絡会では、冊子とともに写真やデータを盛り込んだパワーポイントを使用して説明を行いました。内容は大学の近況として三木新学長の就任をはじめ、二子玉川夢キャンパスのオープン、本学女子学生とデルモンテとのコラボ飲料である「花つぼみ ローズウォーター」の開発・販売、「朝活応援100円朝食」等についてご紹介をさせていただいた後、学修について、成績通知書の見方や各学年における学修計画と到達目標等についての説明を行い、学生生活の注意事項や奨学金等の経済的支援についての説明、さらに進路(就職・進学)について、学生の就職活動を取り巻く昨今の状況及び、それに対する大学のサポート体制や大学院進学に関する説明へと進めさせていただきました。保護者の方々はそれぞれの内容について熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

大学の説明に続き、本学の同窓会組織である東京都市大学校友会静岡県支部より2名のご出席があり、支部の同窓会活動の紹介と県内の就職状況等についてお話いただきました。その後の質疑応答では、今年度は採用選考開始時期が8月1日となったことから就職状況等について、より踏み込んだ内容の説明がなされました。全体会終了後は、希望者を対象として個別相談が行われました。日頃の大学の取組みや離れて暮らすご子女の大学生活について、保護者の方々に理解を深めていただく良い機会となりました。

